

令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立 清瀬 中学校 第2学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	学力調査の結果において、「知識技能」の問題で2.1ポイント目標値を上回っていたが、一方で「思考・判断・表現」は1.5ポイント/主体的に学習に取り組む態度」については7.0ポイントと目標値を大きく下回る結果であった。目標値を下回っている主な要因は、作文問題における無回答率がどの設問においても20%を超えることに加え、問われている内容を適切に捉えられていない回答が10~20%に達することである。	問われている内容を適切に捉える力、自身の考えを課題に合わせて表現する力を高めることに加え、作文を書くことに慣れる必要がある。よって、授業内において採点基準を明確にして短作文を書かせる課題に取り組ませる。また、相互採点を取り入れることにより生徒自身が解答を見直す力を高める。	
社会	・教科書の黒字程度の基本的な用語が身につけていない生徒が見受けられる。 ・定期考査の文章問題の解答が空欄のままやポイントをおさえた文章を書けない生徒がいる。文章にまとめる力に課題が見られる。	・小テストを実施し用語などの基礎基本の徹底を行う。 ・普段の授業から本時のまとめを文章でまとめる作業や、発表する力を育成するために長期休業中に調べ学習を行い、発表する機会を作っていく。	
数学	・学力調査の結果から、目標値との比較においては正負の数、方程式、平面図形では達成しているが、比例・反比例、空間図形、データ分布の傾向では下回る。特に、比例・反比例内容、求積問題は大きく下回る。また、今までの学習したことを利用して説明することに苦手意識があり、学力調査の結果でも無回答が35%以上となっている。自分の考えを説明することが苦手である。	・自分の考えが伝わる説明を授業の中で促す。説明する機会を増やすことで、説明することへの苦手意識を克服できるように支援していく。 ・求積問題では、特におうぎ形に対する定着が弱いため、機会あることに復習問題で取り扱い、その都度求め方を確認していく。	
理科	・授業に前向きに取り組む生徒が多い。反面、ほとんど取り組むことのできない生徒もいる。 ・実験では説明を集中して聞けていないので、間違った操作をすることがある。 ・漢字などがわからないのでノートを書くのに時間がかかる生徒がいる。 ・コロナによる生徒実験の安全性を考える。	・事例を多く提示し、興味関心が今以上にもてるようにする。 ・実験操作について今以上にわかりやすく説明できるようにする。 ・コロナに十分配慮しながらできるだけ話し合い活動を取り入れる。生徒同士の教え合いの時間をとり、得意な生徒と苦手な生徒双方に良い影響があるようにする。 ・プリントの工夫をし、今以上に書き込みしやすいようにする。演習実験と生徒が取り組める実験を精査する。	
音楽	・合唱活動には意欲的に取り組んでいる。 ・授業規律が乱れる場面も見られ、特に男子は集中力や興味関心が低い生徒も見られる。 ・声を出したり、発表したりすることに抵抗感を感じている生徒も中にはみられる。 ・鑑賞の活動は興味をもって取り組める生徒が多いが、文章表現が難しい生徒もいる。 ・リコーダーの忘れ物がみられる。	・音楽祭に向けて、合唱曲をタブレットに自分の歌声を録音するなど、発声への関心を高める。 ・個別の発声や音程チェックによる指導。 ・アルトリコーダー、箏、ギターによる楽器指導。 ・タブレットのソフトを利用した創作指導。 ・鑑賞指導で各楽器の音色や奏法の特徴について、思考・判断力を高める鑑賞指導。 ・忘れ物チェック、取り組みカード記入の実施	
美術	・授業規律が身につかず、授業の内容を理解仕切れず集中力に欠ける生徒が一部見受けられる。 ・制作に関して意欲的に活動できている生徒と不十分な生徒の差がある。 ・作品を鑑賞して言葉で表す力が不十分な生徒が多い。 ・タブレットの使用方法が分からない生徒が一部見受けられる。	・全体指導の後に個人指導を行い、学習の理解度によって効果的なアドバイスを行う。 ・動画やジャムボードなどを使い、生徒がより興味をもつ授業を行う。 ・他者との話し合いの場面を増やして、言葉で表す力を身に付けさせる。話し合いを通して課題解決ができるよう指導方法を工夫する。 ・テレビに自分が操作している画面を映し、個別でも対応する。	
保健体育	・運動が好きな生徒が多い一方で、運動を苦手と感じている生徒が一定数いる。ただ全体的に一生懸命に授業に取り組む生徒が多く、苦手でも頑張って授業に参加している生徒がほとんどである。運動が苦手な生徒に共通している所として、運動の方法が分からない、指示が理解できないという点が考えられる。 ・学習カードを全く出さない生徒が一定数存在している。	・分かりやすく、明確な指示を行う。 ・図や映像を使って、視覚的な理解を促す。 ・習熟度別に練習場所を分け、全ての生徒が基本的な技能を身につけられるようにする。 ・グループ学習を取り入れ、上手な生徒から学ぶ機会を増やす。 ・学習カードの評価が高い人の書き方の例を紹介する。	
技術・家庭	・授業に対して意欲的に取り組む生徒が大半だが、授業についていけず集中力に欠ける生徒も見受けられる。 ・製作では得意不得意の差が大きく見え、活動に対して差が生じている。 ・タブレットの使い方が分からない生徒に対して、分かる生徒が対応して操作ができています。	・板書やプロジェクターでの視覚情報を分かりやすくまとめる。 ・授業内容が説明が多くなってしまったため、実習を多く取り入れ経験から課題解決を出来るようにする。 ・説明だけでは実施できない生徒のために、個別で指導を行う。	
外国語(英語)	授業に対して集中して取り組んでいる生徒が大半であるが、一部の生徒は英語に対して諦めている様子が見られる。活動としては、静かに説明を聞いたり、問題演習をする活動は苦手であり、ペアワークで会話したりする活動などを好んで取り組んでいる。 定期考査では、基本的な文法事項の定着は概ね良いが、英作文においての基礎的な単語のスペルミスが非常に多い。	授業の帯活動にて、生徒の『話すこと』における力を伸ばすためにQAシートを活用したペア活動を実施する。また、ピクチャーカードを見せ、前回の授業の復習をする時間をもつことで、生徒が繰り返し教科書内容に触れる時間をもつ。 基礎的な単語力や文法の定着を確認するために、単元ごとに単元テストを行う。	
道徳	授業に前向きに取り組む生徒が多い。また、意見を求めた時に、挙手をしてくれる生徒も一定数いる。 一方で、設問に対して、自分の意見や考えを文で表現することができない、また考えることをすぐに諦めてしまう生徒もいる。 ワークシートの取り組みは概ね良いが、自分の意見を書く際に理由などまで書けない生徒が一定数いる。	生徒の実態にあった教材選びをするともに、授業に興味をもってもらえるよう、授業の導入を工夫する。 また、ワークシートの設問数も調整することで、生徒が自分の考えをしっかりとまとめ、表現する時間を確保する。また学級全体だけでなく、少グループでの意見交換の時間も設定することで、1人ひとりが自信をもって発言し、相手の意見から自分の考えを深められるようにする。	
総合的な学習の時間	課題設定の能力、問題解決の能力、学び方・ものの考え方について力をつけるため、地域学習、進路学習、キャリアパスポートを中心として取り組んでいる。引き続き自己の生き方を中心に将来や進路に向けて考えられるようにする。	調べ学習、話し合い活動によって得られる様々なことから、主体的・創造的な態度を育成する。課題設定の能力、問題解決の能力、学び方・ものの考え方について力をつけるため個別指導・全体指導をバランスよく行っていく。	